

空の悪魔（ラヂオ・ドラマ）

岸田國士

青空文庫

酒井欽蔵

(四十八)

妻 いく

(四十五)

娘 加代

(二十四)

息子 鉄蔵

(十八)

娘 美代

(十六)

店員 庄市

(三十)

其他

解説

東京山の手の裏通りに、さゝやかな店を構へてゐる時計

商、酒井欽蔵さかゐきんざうの一家、物語の中心はこの一家であります。帝

都は既に敵機襲来に備へて、警戒管制が敷かれてゐるのです。

蒸し暑い真夏の夜の事です。

店先に並んだ大小幾十の時計が一斉に時を刻んでゐる。

やがて、オールゴール入りの眼覚し時計が平和なメロ

デイを奏ではじめる。これは、今、主人欽蔵が店先で

修繕をしてゐるのだ。

奥の部屋で

妻いく　　こんな晩に、仕事をする人つてあるか知ら……全く変りもんだよ、お父^{とつ}つあんは……。

娘加代　　鉄^{てつ}ちゃん、もう起しといた方がよかない？　若^もしか、

急に出て行くやうなことがあると、晩御飯も食べないぢや、お腹^{なか}を空^すかすわよ。

いく　　さあ、お腹もお腹だけど、昨夜^{ゆうべ}からあの通り眠つてないんだからね。お握りでもこさへといてやらうよ。

加代　　なんだか元気がなささうなんだもの。いやだわ、あたし。かういふ時は、もつと勇ましさうにして、くれなきあ、張合が

ないぢやないの。

いく　そこへ行くと、兵隊に行つてただけあつて、庄しやうさんなんかきびきびしたもんさ。まるで、お祭へでも出掛けるやうな……。

加代　さうよ、あれも普通ぢやないけど、鉄ちゃんみたいにしてると、人が変に思ふわね。臆病なんだと思はれてよ。

いく　臆病かね、あれで……。

加代　ほんとはどうだかわからないわ。十八の子供にしちやあれで、なかなか凶づぶと太いところがあるんだけど……五円のお小遣ひきりで、北海道をひとまはりして来るなんて、ちよつと出来ない芸当よ。

いく　（突然、頓狂な声で）あゝ、びつくりした。いやな美代みよ
ちやんだよ。そんなもの、今頃からくつつけてどうすんの。

娘美代　（防毒マスクをつけた声で）兄にいさんのをちよつと借り
たのよ。これをつけて、毒瓦斯の中へ飛び込んで行くんだわ。

重いわよ。

いく　また、兄さんに叱られるから……。

美代　（マスクを外はして）ほんとに戦争あるの。嘘見たいでし
やうがないわ。お父つあん、だつて、あんな平気な顔してお店
に坐つてるぢやないの。

欽蔵　（はじめて）お美代……。

美代　なあに？

鉄蔵 鉄蔵を起して来い。

美代 よく眠てるわよ。

鉄蔵 いゝから起して来い。

時計のねぢを巻く音。オールゴール。

美代が階段を走り上る音。

美代 兄さん。

鉄蔵 ……………。

美代 兄さんつたら…………。

鉄蔵 ……………。

美代 可哀さうね。こら、兄さん、起きるのよ。

鉄蔵 (飛び起きたらしい)

美代 あら、そんなに吃驚びつりしないだつていゝわ。

鉄蔵 畜生……。

美代 お父つあんが起して来いつて云ふんだもの。

鉄蔵 おやぢ、なにしてるんだ。

美代 眼覚しを直してるわ。

加代 (上つて来て) 鉄ちやん、眠いでせう。

鉄蔵 当りめえよ。おやぢ、なんの用があるんだい。

加代 あんた、あんまり元気がなささうだからよ。心配してる

んだわ。きつと。

鉄蔵 やい、マスクをどうしたんだい、こいつ……入れとけよ。

加代 お父つあんと喧嘩しちや駄目よ。なに云はれても、ハイハイつて云つてなさい、（間）鉄ちゃん、なにぼんやりしてんのよ。

鉄蔵、急に立ち上つて、階段を下りはじめる。

鉄蔵 お父つあん、なにか用？

欽蔵 まあ、そこへ坐れ。

鉄蔵 そんな時計、何時だつていゝんぢやないか。それより松田さんの懷中、早く頼むつて云はれてるんだぜ。あの人警報班

で、時計がないと不自由だらう。

欽蔵 わかつてる。さつき代りを渡しといたよ。時に、お前が
らだの具合でも悪いんぢやねえか。

鉄蔵 どうして？

欽蔵 浮かねえ顔をしてるからさ。

鉄蔵 戦争で浮いた顔ができるかい。

欽蔵 出来ないつてのは、生命いのちが惜しいからだ。やい、男なら

男らしく、腕つ節をみせろ。日本男児は、理窟を云はずに、悦
んでお国のために働くんだ。手前は、防護団の一員ぢやねえか。
毒瓦斯班といふ大事な役目を云ひつかつてるんだ。葬式へ参列
するやうな面をして、そんな任務が勤まると思つてゐるのか。

第一、見つともねえぢやねえか。

鉄蔵 第一、毒瓦斯班なんてものはありやしないよ。防毒班だよ。それから、お父つあんは、僕の面が葬式へ参列するみたいだつて云ふけど、全く、さういふ気がしてるんだ。悲しいやうな、じれつたいやうな、早く云や、面白くもなんともないんだ。

欽蔵 何が面白くねえんだ。

鉄蔵 今度の戦争がさ。文明人なら文明人らしい戦争をしたらよささうなもんぢやないか。

欽蔵 ところが、空中戦なんてえのは、文明が進んだ証拠ぢやねえか。

鉄蔵 抵抗力のない女子供を、空の上からおどかすなんて、全

く、強盜か野蠻人の仕業しわざだよ。

欽蔵 そんなこと云つたつてしやうがねえ。だから、その女子供を、われわれ男が……。

鉄蔵 (夢中で) 僕の声が若し千里先まで聞えるなら「やい貴様達恥を知れ」つて云つてやるよ。

加代 鉄ちゃん、御飯をおあがりよ。

鉄蔵 なんにも食ひたくないんだ。

加代 夜中にまた、お腹がすくわよ。交代は十一時なんだから、まだ時間があつてよ。

鉄蔵 ぢや、食くひ納をさめに食つてやらあ。

欽蔵 敵が攻めて来るからつて、飯が喉へへえらねえやうでど

うする。あきれた野郎だ。

沈黙。

波の音に交つて、電話の呼鈴。

「小笠原島^{をがさはらじま}東方五キロ、はい聞えます。敵の主力艦隊……はい……航空母艦二隻を有する……はい……千葉監視隊本部へ……はい……無線電信の故障で……はい……はい、わかりました」

波の音が次第に消えて、再び時計のチクタク。

欽蔵 戦争が好きだとか嫌ひだとか云つてみたところではじまらねえ。だからよ。どうしても戦争をしなけれやならんと云ふんなら、勝つより外ほかに道はあるめえ。負けたら最後おれたちや、犬猫同然だ。手前てめえのやうな、煮えきらねえ男ばかりだつたら、それこそ、勝つ戦いくさもどうだかわからなくなるぞ。

鉄蔵 そんなこと云つて、お父つあん、僕たちや、手の出しやうがないぢやないか。爆弾にしろ、毒瓦斯にしろ、相手は喧嘩にならない代物なんだぜ。敵の飛行機は、味方の軍隊がやつつけようとする。それやいゝさ。だけど、僕たちや、地べたの上で、何をしてるんだ。武器を執つて堂々とわたり合ふことも出来ず、たゞ殺されない工夫ばかりしてなきやならないんだ。

欽蔵　それが間違えだ。まちげ手前は、自分のことばかり考へてる。

なぜ「殺させない工夫」と云はねえんだ。自分を守るんぢやねえ。きやうだい同胞を守るんだ。帝都を守るんだ。日本といふ国を守

るんだ。そんなことがわからねえのか。

鉄蔵　わかりすぎるくらゐわかつてるよ。僕の云ふのは、なんのために働くかといふことぢやない。同じ働くにしても、受身ぢや張合がないと云つてるだけだ。

欽蔵　なんだ。張合がねえ！

鉄蔵　言葉は悪るいかも知れないよ。ぢや、なんて云つたらいいかな。

欽蔵　なんにもいはないのが一番いゝ。

鉄蔵　だから、僕は、なんにもいはずにゐたんぢやないか。お父つあんが、余計なことを訊くからさ。僕は、空元氣からげんきをつけ、る必要はないんだ。

欽蔵　みんなが氣もちを揃へようと思つたら、ちつたあ、大きな声ぐらゐ出すもんだ。

鉄蔵　ヨイトマケ、ヨイトマケつてかい。

欽蔵　畜生、このおれだつて、何時いつまでも、ぢつとしちやゐねえぞ。防護団の連中に欠員が出来たら、何時でも出掛けてくから、手前てまえさう伝へてくれ。

鉄蔵　そんなこたあ、云はなくつたつてわかつてるよ。

加代　食べたくないなんて、随分食べるぢやないの。

美代　兄さん、お弁当つけて何処へ行くの……。

鉄蔵　おつ母さん、服部はつとりの息子ね、僕と同じ班なんだぜ。昨

日、戦友の契ちぎりを結ぼうなんて、レモン・テイイをおごりやがつ

た。あいつ、センチだからなあ。

美代　もう、頭髪あたまわ分けてんのね。

いく　あんな大きなお店でも、息子さんが毒瓦斯の組へはひり

なさるのかね。

鉄蔵　鼻の利きくやつがとられたんだよ。試験にパスしたんだか

らしやうがないや。

美代　あら、どんな試験？

オールゴールの音が次第に消え、波の音がだんだん高く聞え出す。犬吠崎附近の海岸監視哨。波の音。

A 来たぞ、来たぞ。

B 待て、落着いて聴け。

C 距離は？

A 確かにさうだ。ちよつと、測^{はか}つてくれ。

B 懐中電燈を見せろ。

C おい、伝令。

電話の呼鈴。

声　　銚子第二監視哨報告……午後八時五十分、東北二千五百、
重爆三機、高度三千、海岸に沿ひ南進す。

電話の呼鈴。

別の声　　東^{とうがね}金防空監視隊本部報告……午後八時五十二分、鳴^な
^{るはま}浜東方三千、重爆三機、高度二千五百、九十九里海岸に沿ひ
南進……。

電話の呼鈴。

別の声　　関東防衛司令部ですか。こちらは、千葉監視隊本部です。

電話の呼鈴……（前の文句に重つて）

防衛司令部

A別の声　　警報係！　非常燈火管制……。

B別の声　　こちらは防衛司令部です。司令官命令、各部隊は戦闘配備に就け。

C別の声　　飛行隊は速すみかに出動せよ。

D別の声

消防、防毒機関、直ちに警戒配備につけ。

これに重ねて、遙かに砲声。砲声が消えると、もとの、
時計のチクタク。

加代　あゝ、さうさう、さつきお父つあんの留守に、あの方が、
かた

ほら、予備の少将つて方がいらしたわ。時計はまだ出来ない
かつて……庄さんもゐないし、あたしぢやわからなかつたの。

欽蔵　ありや、ヒゲが錆びてたから取替へたんだ。今時間の調
節をしてゐるとこなんだが、二三日待つて貰ふよりしやうがね
え。畜生、手がふるへてやがら。敵の飛行機なんかちつとも怖

かねえが、どうも、空襲つてものにや慣れてねえからなあ。

急にサイレンの音。

美代 あ、電気が消えたわ……。

加代 ちつとしといで。

いく また点ついた。なんだい、あのサイレンは……。

美代 来たんだわ。飛行機が来たんだわ。

いく ちよいと、あんた……ほんたうですか。

欽蔵 静かにしろ。雨戸はしめたか。

加代 二階の電気。

サイレンの音に交つて、（空襲、空襲）とさけぶ警報
班員の声。

某地点にある照空隊長の号令。

定位^{ていゐ}に就け。

目標、東方上空の爆音。

航速四十。

運転始め。

照射^{せうしゃ}用意。

照空隊分隊長の号令。

A 第一分隊 聴ちやうおん音よし。

B 第二分隊聴音よし。

C 航速四十。

A 運転始め。

(発電自動車の機エンジン関の音)

A 照射用意、送電。第一分隊点燈てんとうよし。

B 第二分隊点燈よし。

照空隊長の号令。

統一せうしや照射。

十秒照射始め。

用意、はか測れ。

照空隊分隊長の号令。

A 統一照射、十秒照射始め。

B 用意、測れ。

C 零五二、四三（射手の報告）

A 照射。

照空隊長の号令。

目標発見。

目標追隨。

聴音機は東方上空を警戒せよ。

高射砲隊長の号令。

目標、東方上空の射光内しやくわうないの重爆。

高度千二百。

始め。

航速十秒。

航路角かく五百。

五発。

（砲声続いて五発）弾丸を装填する音。発射。弾丸の空気を裂く音。爆裂する音。葉莢の落ちる音。飛行機の爆音。機関銃の音（空中戦に於ける）やがて凄じい爆弾の音。悲鳴。その余韻に続いて、再び、時計のチ

クタク。

欽蔵 出掛けるか。よし、しつかり頼むぞ。

鉄蔵 ^{ねえ}姉さん、水筒……。

加代 気をつけてね。

美代 ^{にい}兄さん……。 (泣声になる)

また、爆弾の音、続いて二つ。

美代 お父^{とつ}つあん……。

欽蔵 大丈夫、大丈夫……。

爆弾、砲声、機関銃、プロペラの音、しばらく止ま^やず。
あちこちに、悲鳴が聞える。警報班員及び交通班員の
声。

警報班員 A

なるべく家の外に出ないで下さい。

交通班員

避難者は道路の右側をあけて下さい。

消防自動車のサイレン。呼子、拍子木。

B
第二小学校附近に毒瓦斯弾を投下しました。防毒マスクを

用意して下さい。

C この辺は風かざしも下ですから、急いでマスクをつけて下さい。

A 早く用意をして下さい。

避難する群集の騒音。

加代 鉄ちやんの組が行くんだわ。

いく 防毒班つていへばさうだね。あのマスクをしてるれば、大丈夫なんだらう。

欽蔵 鉄のことはどうでもいゝ。早く、お前たち、マスクをか
ける。糊刷毛は何処へやつた。

表の戸をたたく音。

欽蔵　　なんですか。

声　　旦那、わたしです。
市しやういち　　市です。

欽蔵　　あゝ、庄さんか、どうしたい？

庄市　　どうも、この辺は危いですよ。避難した方がよささうです。
す。　　猛烈な毒瓦斯らしいです。普通のマスクぢや、駄目と見え
て、　　ばたくやられます。

欽蔵　　何処へ避難するんだい？

庄市　　ですから、わたしが御案内します。早く、みなさん出て

下さい。

群集の叫び声、砲声に交つて、愈々はげしくなる。

欽蔵　やめたよ、庄さん、おれたちは動くまい。行つた先でまたやられやおんなじこつた。それより、救護班の方は忙がしかないかね。

庄市　あゝ、忙がしいには忙しいやうですが、救護班も今、避難準備をしてゐるところです。なにしろ、一度にどつとやつて来たもんですから……。

欽蔵　よし、おれはそつちへ行くよ。旭市場あさひいちばだつたね、救護

所は……いゝから、君はほかを廻れ。おい、お加代、あとを頼むぞ。

加代　お父つあん、あんたみたいな半病人が行つたつて、なんにもならないわよ。

欽蔵　馬鹿吐ぬかせ。子供をおぶふぐらゐのこたあ、おれにだつて出来ら。

加代　人手ひとでが足りなけれや、予備班つていふのがあるんだから、お父つあんなんか行つたつて、追ひ返されるだけよ。

直ぐ近くに、爆音。美代をはじめ、女共のけたゝましい悲鳴。

庄市 あ、飛行機が落ちた。

欽蔵 敵のか。

庄市 さあ……あゝ、燃える、燃える。こりやいけない。

加代 どこ？ どこ？

しばらく、砲声と、プロペラの爆音。群集のどよめき、
電話の呼鈴。

声 防衛司令部参謀です。敵機主力は千葉方面に一部は東京湾
に向つて退却。友軍戦闘機は、これを急追中でありませう。は？

いえ、まだ、そつちの方面からは情報が上がりません。は？
あゝ、さうですか、敵の航空母艦、艦名はわかりませんか。
それや御目出度う。いえ、大したことはありません。

電話の呼鈴。

声　　下田しもだ監視哨報告。三十機以上より成る敵の爆撃機編隊はそ

の先頭を以て、只今、おほしま大島南端上空を北進中。高度三千。

電話の呼鈴。

別の声　海軍飛行隊の一部は直ちに出勤、大島の上空に於てこれを邀撃せんとす。

電話の呼鈴。やがて、底鳴りのやうなどよめきの中に、時計のチクタク。警報班員の声。

A　敵機は退却しました。しかし、まだ油断はできません。非常管制を継続します。

B　救護所の手は揃ひました。却つて混雑を出しますから、もうどなたも手伝ひを御遠慮下さい。

C　毒瓦斯は空気より重いのですから、縁の下へ逃げ込まない

で下さい。臭ひがしたら、取りあへず、濡れ手拭で鼻をおさへて下さい。

欽蔵　それみろ、なんでもありやしない。万事早く片づくところはえれえもんだ。おい、かうして、もしやうがねえ。仕事台をこつちへ持つて来るから、お加代、ちよつと手を貸してくれ。

いく　こんな明^{あか}りで。あんた……。

欽蔵　黙つてろ。駄目だよ、そつちをそんなに持ち上げちや……ほら、ピンセットがおつこちた。どつこいしよつと……坐蒲団をよこせ。こら、お前たちも、うろろうしてないで、針仕事でもしろ。

いく　戯^{じょうだん}談ぢやありませんよ。ほんとに、そんな呑気な真

似してゝいゝんですか。

加代　いゝぢやないの、お父つあんはお父つあんで、したいことをさせといてあげたら……あゝしてないと、気が落ちつかないのよ。

美代　あたし、御不浄へ行つてもいゝか知ら……。

加代　いけないわよ。

いく　馬鹿だねえ。さつさと行つといで。明りを点^つけつばなしにしちや駄目だよ。

欽蔵は、また眼^{めざまし}覚の修繕にかゝつたらしい。ねぢを

巻く音。やがて、例のオールゴールのメロディ。

いく 鉄ちやんはどうしてゐるだらうね。

加代 ひとなみ 人並のことはするわよ。

いく どういふもんだろね。息子が戦争に出る時、母親はこんなちやいけなと思ふんだけれど、やつぱり、普通の気になり方と違ふんだから……。

加代 だつて、おつ母^かさん、鉄ちやんばかりが危い目に会ふんぢやないわよ。あたしたちも戦争の真^{まんなか}中^{なか}にゐるのよ。

いく それやさうだけどもさ。あの子は、毒瓦斯の中へはひつて行くんだつていふぢやないか。それに、なんといつても家^{うち}の中とは違ふからね。

欽蔵　うるせえな、そんなお袋だから、鉄みたいな愚図々々が
できちまふんだ。

いく　それや、あたしだつて、あの子の前でこんな事云やしま
せんよ。

欽蔵　思つてゐることは顔色に出る。

いく　思つてゐることだつて、それが全部ぢやありませんからね。
あの子が立派な働きをしてくれゝばいゝ、さうも思つてゐるん
ですよ。

欽蔵　立派な働きをして……まあ、どうでもいいや、そんなこ
たあ……おい、お加代、表の戸棚へはひつてる油砥石あぶらといしを持つ
て来てくれ。それと、序ついでに、機きかい止どめの捻ねぢ廻まはし……。

加代　表ぢや、まだ人が騒いでるわよ。いやだ、誰か大きな声
で泣いてるわ。

その泣声が次第に聞えて来ると、それがまた、だん／＼遠ざかる、救護所である。様々な声。うめき声。

男A　重症患者は、向うのテントへ運んで下さい。

男B　もつと担架を持つて来なくつちや駄目だぜ。

女甲　今、先生が見えますから、少し我慢なすつて下さい。

女乙　あら、困るわ。今こゝへ置いた繃帯、誰が持つてつたの。

女丙　ちよつと、オキシフル、もうないぢやないの。

女甲　先生、先生、この方を早く診てあげて下さい。

女丁　いけません。勝手におはひりになつてはいけません。あとでお会はせします。治療の邪魔になりますから、一切面会は禁じることになります。

患者　あ痛い、痛い、痛い……あゝ、苦しい。

その声がかすかに消えると、けたゝましい電話の呼鈴。

声　大磯^{おほいそ}監視哨報告、三機より成る敵の軽爆撃隊は驚くべき

快速力を以て、大磯上空を通過せり。高度二千、北進。北進。

防衛司令部参謀の声　おい通信手、横浜地区司令部へ接続。

遙かに機関砲の音。やがてサイレン。

高射砲隊長B

目標、西方上空の射光内の軽爆。

プロペラの爆音。

「高度二千」

「始め」

「航速十五秒」

「航路角六百」

「六発」

(砲声六発)

喊声とも悲鳴ともつかぬどよめき。

防護団分団本部員A 毒瓦斯弾無数に投下さる。警戒せよ。

B 防毒班、防毒班。

C 第一班、出動準備。

D 第二班、準備。

E 第三班。

F あさひいちば旭市場の附近だ。救護所だ。

その声の上にかぶさつて呼子拍子木。機関砲の音。

救護班員C 患者を運び出せ。

D 風の方向は？

E 東南……………。

D ようし、避難所は佐竹さたけししやく子爵の邸内。

C 慌てるな、慌てるな。

F 防毒班はまだ来ないか。

C 救護班の予備班徴集。

女甲 さ、しつかりつかまつて下さい。

D 担架々々。

E 軽症患者は歩かせろ。

女患者B とても駄目だわ。もう呼吸いきが、あゝとても苦しいわ。

D しつかり、しつかり。

E 眼をやられるぞ。

女患者D 早く連れてつて下さあい。子供を子供を……。

その声がかすかに消えると、それにかぶせてかすかな
砲声、時計のチクタク、オールゴール。

加代

美代ちゃん……ちよつとこゝしばつて……あゝたもと袂が面倒

臭いなあ。お父つあん、今度こそは、こゝにゐちや駄目よ。

欽蔵　やかましい奴だなあ、さつきも庄市がさう云ひに来たぢやないか。消毒薬がとてもよく効いて、こんなことなら毒瓦斯はちつとも怖くないつて……第一、まだ臭ひもなんにもしやしないぢやないか。軍隊は強いし、防護団の諸君はなか／＼訓練が行届いてるし、われわれ非戦闘員はなるだけぢつとしてゐて、お互にぶざまなところを見せ合はない方がいゝんだ。その代り、いざ手がいるとなつたら、どんなことでも引受けるさ。

いく　なんだい、あの騒々しい音は……。

警報班員の声。

A 只今、旭市場前に毒瓦斯弾が落ちましたが、この辺は避難の必要ありません。救護班の第一予備員の方は、至急マスクをつけて、旭市場救護所へお集り願ひます。

いく 加代ちゃん番かい。

加代 あたしは第二よ。

警報班員の別の声。

B 救護班第二予備員の方は、至急佐竹子爵邸仮救護所へお集り下さい。

加代 第二ですか。

B さうです、佐竹子爵邸ですよ。

加代 はい、わかりました。きつと救護所の引越しだわ。

いく 足袋たびをはいといでよ。

美代 姉ねえさん……………。

加代 行つて参りまあす。

欽蔵 さうく、さう来こなくつちや。

戸の開く音。戸外そとのどよめきが流れる中を、草履さうりの音を高く、加代は走り出す。

消毒液を撒布する音。

防毒班 A　やあ、まだこの辺は臭いぞ、みんな来てくれ。

B　家の中が大変だ。

C　逃げ遅れたものはゐないか。

D　おい、酒井君、何処へ行くんだ。

鉄蔵　君達、その辺を頼むぜ。まだ奥の方が残ってるから、僕ちよつと行つて見てくらあ。

酒井鉄蔵は、かうして、ある長屋の路地へ進入して行く。

鉄蔵　　おや、誰か倒れてるぞ。もしく、どうしたんです。小
母^ばさん、マスクはないんですか。早く逃げなきや駄目ですよ。
弱つたな。もう起てないんだね。待ち給へ、おゝい、救護班：
：救護班来てくれ。苦しいの。さうく、喉が苦しい。ぢや、
しかたがない。僕のマスクを貸してあげよう。さ、その代り大
急ぎだ。フウ……フ……いゝですか、しつかりおぶさつて下さ
い……（咳入る）……うむ。……

鉄蔵は、老婆を負つたまゝ、その場に倒れる。

A　　今、誰か呼んでたやうだぜ……こんなところは、いゝ加減

にしとかうよ。酒井君はどうしたんだい。しやうがないなあ、
一人で行つちまつちや……おゝい、酒井君……鉄蔵君……。

高射砲の音、遙かに……やがて、遠くで（万歳）とい
ふ歓声。

B
C

酒井君……鉄蔵君……。

女の声（無論加代である）

加代　あなた、服部はっとりさんのお子息さんでしたね。鉄蔵がどう

かいたしましたんですか。

A　暗くなつてよくわからないんですが、探してるんです。たつた今、一緒にゐたんですけど、なんでも、この奥へ入つて行つたらしいんです。駄目ですよ、まだ毒瓦斯が残つてゐますから……。

B　お待ちなさい。今、消毒薬を撒きますから……。

機関銃の音。続いてまた（万歳）といふ声。

加代　あの黒いのはなんでせう？

A　懐中電燈をつけませう。

加代　あ、鉄ちゃん……鉄蔵ですわ。鉄ちゃん……どうしたの……こんなところで……。

B　無茶だ、こいつ、マスクを脱ぐなんて……。

C　酒井君……（半ば憤り）このお婆さんは一体、だれだい？
加代　鉄ちゃん、あんたは、この人を助けようと思つて……。

機関銃の音、ひとしきり。やがて、この音に交つて、
電話の呼鈴。

もし、もし、こちらは大島監視哨であります。わが海軍飛行隊は、敵機十数機を射落し（電話の呼鈴）残余十三機は一斉に白

旗を掲げたるにより、（電話の呼鈴）これを波浮港外はぶに誘導着水せしめたり。終り。

この報告は二度、電話の呼鈴で遮られ、次第に低く聞える。これに代つて、時計のチクタクがはつきり聞えて来る。

欽蔵 どうも御苦勞様でした。加代は、すると一緒に救護所の方へ行つて居りますんですな。

防毒班A え、あちらへは、どなたもおいでにならないやうにつていふ御言伝おことづてでした。

欽蔵 駄目ときまつたなら、遺骸はすぐにこちらへ、引取らしていたゞけませうか。

A声 さあ、僕にはよくわかりませんが……その事だけなら、お伝へして置きませう。

欽蔵 何分よろしく。

戸を閉める音。

美代 お父とつつあん。

欽蔵 馬鹿野郎！ その面つらはなんだ。今は戦争ぢやねえか。貴

様たちは、大体、生きてゐてなんになるんだ。かういふ時は、

死ぬのが当り前ぢやねえか。畏れ多い事だが、上御一人かみごにんに御障おさはりさへなければ、日本国中、誰一人、死んぢやならねえといふ人間はねえんだ。畜生め、承知しねえぞ。

欽蔵は、やけに時計のねぢを捲く。戸の開く昔。人声。

加代 お父つあん。鉄ちやんを、連れて来ましたよ。おつ母かさん、蒲団を敷いてやつて下さい。

沈黙。時計のチクタク。

遠くで万歳といふ声。電話の呼鈴。

東^{とう}金^{がね}監視隊本部報告。両翼を大破せる敵重爆一機、只今、九十九里海岸片^{かたがひ}貝町の海上に不時着。直ちに、その乗組員四名を捕虜とす。なほ、他の一機は、同町二千米の沖合に墜落せるものゝ如く、搜索の結果、遂に機影を発見せず。

時計のチクタク。

欽蔵　　白いきれはないか。

加代　　今ガーゼを出します。おつ母さん、
金^{かな}盥^{だらひ}に水をくん

で来て頂戴。それから美代ちゃん、二階の机の上の花^き瓶から桔

梗きやうの花を二つぬいて来て……萎しをれてないのをね。

近所からのラヂオが聞え出す。

J O A K……こちらは東京放送局であります。只今から、東京防衛司令部発表のニュースを放送いたします……今こん夕ゆふ、八月八日午後八時五十五分、同じく九時二十分の二回に亙り、帝国の領土上空を襲ひたる敵機は、総数合せて三十六機、疾風暗黒の夜に乗じて巧たくみに我が攻撃を避け、遂にその数機は、帝都中心圏内に侵入して、若干の損害を与へたるも、天佑、海陸皇軍の作戦を利あらしめ、市民並に隣接諸県官民の沈着剛毅、よく非

常防空の実を挙げ、茲に、第一回空襲の敵機を文字通り撃滅し得たり……。

この放送の終らない中に、軍楽隊は莊嚴勇壮な君ヶ代マーチ（或いは『海行かば』）が吹奏される。

庄市がかけ込んで来る。

庄市　旦那、どうもとんだことで……たつた今、救護所でその話を聞いたんです。

欽蔵　うむ、聞いたか。

庄市　えらい評判です。

加代　あたしが見つけたのよ。

庄市　さうですつてね。あ、あの婆さんは、助かつてますよ。

万歳、万歳。

欽蔵　（『万歳』といふ声に耳をすまし）やい、鉄蔵、あの『万歳』が聞えるか。あの楽隊が聞えるか。

急に、いくが声をあげて泣き出す。美代も、これにつれて泣く。

庄市 お神^{かみ}さん、泣くつて法はないや。名譽の戦死でさあ。

欽蔵 なに、かまふこたあねえ、泣きてえものは泣けく。け
ちな涙たあ、わけがちがはあ。おい、お加代、祝盃だ。冷^{ひや}でい、
から、一本持つて来い。（胸が一つぱいだといふことがわかる）

マーチ、万歳の声。

青空文庫情報

底本：「岸田國士全集6」岩波書店

1991（平成3）年5月10日発行

底本の親本：「花問答」春陽堂書店

1940（昭和15）年12月22日発行

※底本は、物を数える際や地名などに用いる「ヶ」（区点番号5-86）を、大振りにつくっています。

入力：kompass

校正：門田裕志

2011年7月6日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

空の悪魔（ラヂオ・ドラマ）

岸田國士

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>